

▽新垣 實 教授 Minoru Arakaki



学 科： 英米言語文化学科

担当科目： 卒業論文、基礎演習、英語学概論、Writing I

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ① California State University, Long Beach
- ② Master Degree
- ③ 沖縄外国文学会
- ④ 全日本大学ソフトボール連盟理事、全九州大学ソフトボール連盟理事  
沖縄県大学ソフトボール連盟会長

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動 基礎演習I	2011年4月1日～8 月10日	文章トレーニング1～5を通してアカデミック レポートとは何か・書き方・プレゼンテーショ ンの仕方について学ぶ。4つのレポートを課 する。 課題1:「自分について」 自由に書かせてみる。提出された全 員のレポートはその体をなしていな い。つぎに、添付のレポートの様式 を与え書かせる。まずまずの形の体 裁が整う。次にレポ-の文体・パラ

		<p>グラフについて学び、再度書き直しをする。レポートとしての体裁が整う。次に、内容を吟味して書かせる。それなりのレポートとなる。完成したレポートのレジユメを作らせプレゼンさせる。自分を知ることによって、自分のこれからの4年間の過ごし方、将来の展望について考えるきっかけになる。</p> <p>課題2:「私の家族」</p> <p>自分を育んできた家族について知ることにより、居て当然だと思っていた家族への感謝の気持ちを持つようになる。</p> <p>課題3:「私の幼・小・中・高時代を振り返って」&lt;各学年のクラスの素描&gt;</p> <p>自分の幼・小・中・高時代のクラスを振り返ることにより、自分がどのような人たちと交わり、どのような人たちにお世話になってきたか、関わった人たちへの感謝の気持ちを持つようになり、何を学んできたかなどを知るとともに、そのとき時の自分はどんな自分であったかを知るきっかけとなる。</p> <p>課題4:「大学の前期カリキュラムについて」</p> <p>前期に自分が勉強してきたことを再確認するきっかけとなる。大学入後4ヶ月もたち、自分が何をしてきたか、自省することになる。</p> <p>* 課題2～3についても課題1の手順を踏む。</p>
--	--	--

<p>基礎演習II</p>	<p>2011年9月26日～</p>	<p>文章トレーニング6～10を通して、レポートの文章、脚注の付け方、資料の収集、まとめ方等について学習し、収集した資料を活用しレポートを書かせる。プレゼンテーションをさせる。5つの課題を課する。</p> <p>課題1: タイムスのコラム「大弦小弦」、新報の「金口木舌」を3週にわたり毎日筆写させ、ゼミのある日はその内容について感想を述べさせる。(3分間スピーチ)</p> <p>課題2: 「私の誕生日」&lt;新聞記事に見る世相&gt;  図書館の書庫にある過去の新聞を活用し、誕生日の新聞記事で自分が気になった、政治、経済、社会、スポーツ記事を一つ選択し、要約ノートを作らせ、それぞれ章立てしたレポートを書かせる。30ページ前後のレポートになる。図書館に通い詰めさせ、新聞を読むと言うことを学ぶ。工程表を作り、集中してやることの大切さ、大変さを学ぶことになる。語彙力や文章力がつく。</p> <p>課題3: 模範レポートの筆写  10数ページの模範レポートを筆写させることにより、その何たるかを学ぶようになる。</p> <p>課題4: 自由課題レポート  基礎演習の集大成として、図書館資料を活用するレポートを書かせる。  * 課題1の手順を踏む。</p> <p>課題5: プレゼンテーション  論理的なプレゼンテーションを心がけさせる。  * 上記の課題をこなすことによって次のことを学ぶことになる。</p>
---------------	--------------------	---

<p>卒業論文 I・II</p>	<p>2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 2 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まず、新入生はアカデミックレポートについて何の知識も持ち合わせていない。レポートの様式などを示し、何度も書き直しをさせることによって、そのなんたるかを学ぶことになる。</li> <li>2. 自分を知ることにより、自省し将来目指すべき目標を立てることの大切さを学ぶ。</li> <li>3. 新聞を読ませ、要約させることにより、資料等をまとめる力がつく。語彙力・文章力がつく。</li> <li>4. 新聞のコラムなどを筆写させることにより語彙力・文章力がつく。</li> <li>5. 記事の感想や自分のレポートについてレジメを作り発表することにより、論理的なプレゼンテーション力がつく。</li> <li>6. 図書館作業をさせることによって、図書館利用の仕方を学ぶ。</li> <li>7. 課題を仕上げるための工程表を作らせる。工程表にもとずいて作業することの大変さ、重要さを学ぶ。</li> <li>8. 締め切り期限を守れないのは、自分が工程表にもとずいて作業をやらないなんらかの言い訳を見つけ、作業しないことが原因であることを学ぶ。</li> </ol> <p>登録者数 24 名(留学生 2 名)。図書館オリエンテーション・キャリアガイダンスを導入。基礎演習 I～IV・専門演習 I～IV で学んだことを基にして卒業論文を各自書く。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野(英米文学・言語学・文化・など)から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、卒論発表会を行う。</p>
------------------	---------------------------------------	--

英語学概論	2011 年4月 1 日～8 月 10 日	英語学概論とは、アメリカ人やイギリス人が乳幼児のころから習い覚える英語の言語習慣や規則の体系を音声、語彙、文、意味などの角度から総論的に勉強する学問分野である。英語を単なるコミュニケーションツールとしてではなく、そのしくみを科学的に分析し記述する方法論を学び、英語に対する言語学的理解を深めることを目指す。
英語 I・II	2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 2 月	英語の speaking、listening に関する基礎的な運用能力を養成しその向上を図るとともに、英米の言語習慣や文化などについて学ぶ。さらに、日本語、英語、沖縄の諺や格言などについて比較し、その文化の類似点・相違点などについて勉強する。
English Reading I・II	2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 2 月	(1)Key Sentence を基にした dialogue 形式の substitution practice を行い、英語の多様な文形式身につけさせる。暗唱させ、毎時間対話形式で発表させる。 (2)英検準 2 級～2 級程度の paragraph reading を行う。暗唱するほどにテープを使い repeat reading を行う。
English Writing I	2011 年 9 月 26 日～ 2012 年 2 月	(1)Key Sentence を基にした dialogue 形式の substitution practice を行い、英語の多様な文形式身につけさせる。暗唱させ、毎時間対話形式で発表させる。 (2)paragraph の論理について学習し、paragraph writing を行う。
2. 学生支援活動 1. 男子ソフトボール部顧問・ 女子ソフトボール部の顧問・監	1985 年 4 月～	ソフトボールの競技力向上・普及活動につとめる。



学文学部紀要、第7巻 第1号

8) 2004 *A Partial Study of English X's Y's Adverbial Verb Construction Idioms*、沖縄国際大学文学部紀要、第7巻 第1号

翻訳

1997 Diplomatic Negotiations Within the Context of Ethnic Conflict and Violence by Dr. John N. Johnson, Baylor University、96 '国際平和シンポジウム報告集

### 研究分野

認知言語学、認知意味論、英語慣用句構造論

### 【Eメール・ホームページ等】

平成 23 年 10 月 17 日現在